

事例 2 (小学校 2)

親の財布からたびたび盗みをした事例

1. 主訴 盗み

2. 対象 小学校4年 女子

3. 問題の概要

- 小学校4年の1学期に身体のだるさを訴えたので、医師の診断を受けたら、「若年性高血圧」と診断された。食事制限を主治療に入院加療をしていた。その間に盗み食いや両親の財布から金を盗むようになった。
- その後、退院してからも両親の財布から金銭を盗むようになり、問いただされると嘘に嘘を重ねるようなことが続いている。

4. 資料

— 生物学的次元 —

- 既往症  
乳幼児期とも身体症状は特になかった。
- 運動・行動  
低学年時に、敏捷性に欠け、よくころぶことが多かった。

— 心理的次元 —

- 知的発達  
集団式知能検査偏差値は46。学業成績は、低学年では最下位グループであったが、4年生になってや、向上してきた。
- 性格傾向  
幼児期までは、人見知りをする事もなくおらかであった。  
親の財布からお金を盗むようになってから口

数が少なくなり、おどおどするようになった。また口答えをするなど、反抗的な態度がみられるようになった。

● 対人関係

幼児期は、近所の子との遊びが多く、母親と遊ぶことがほとんどなかった。家の都合で、他家に預けられたり、母親が不在がちだったりしていたので、母親に対する愛情に飢えている。母親も本人を扱いかねている。

授業では、学習中の手遊びが多く、学習の障害になるとともに級友から孤立することが多かった。また、告げ口をすることで級友からいやがられたり、いじめられたりしていた。

学校に菓子や小物などを持ってきて、他の子にくれたりして、級友の目を自分に引きつけようとするところがあった。「ウソ」をつくことも多く、その都度担任の指導を受けているが、改善されていない。

● 基本的生活習慣

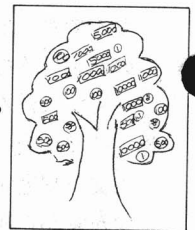
整理整頓や清潔さなどあまり身につけていない。

● 習癖

小2のころ「つめかみ」があったが、現在はみられない。

● バウム・テスト (右図)

2回ともお金を描いており金銭への執着がみられる。



— 社会的次元 —

- 家族構成 商業・42歳 家事・40歳

